

## 日中教科書問題の新しい火種にならなければよいが

中国の小学校の国語の教科書に『一碗阳春面』という話が出てくるそうだ。実は、これは、あの後味の悪い『一杯のかけそば』のことだ。中国語訳したものを全国の小学生が読んでいるらしい。先日、二人の中国人留学生から聞いた話である。一人は瀋陽出身、もう一人は広州出身だから、「全国の子どもが読んでいる」というのも、あながち嘘ではなさそうだ。

二人は女性で、ともに20代。中国における日本文化の話をしていて、日本の歌手では宇多田光、浜崎歩、S.M.A.Pがものすごい人気で、作家では村上春樹が有名。で、作者名は不明だが、日本の美談で皆がよく知っているのが『一碗阳春面』である、という話の展開であった。中国人は、あのようなハードな人生を送る話に心を打たれるそうだ。ちなみに『一碗阳春面』でグーグル検索すると、感動的だという内容であると思われる中国語のサイトが出てくる。

留学生の一人は来日して半年、もう一人は3週間である。・・・「実は、あの話ねえ、我々日本人も、いっぱい食わされて・・・」とは、私の口からは言えなかった。しかし、遠くない将来、彼女たちは真実を知るだろう。これほどたくさんの中国人留学生が来日している時代だから、日本各地、中国各地で、「えーっ、そうだったのぉ」ということになっているはずだ。

先日、NHKスペシャルで、中国のものすごい所得格差の実態を紹介していた。貧しい農村部では、一家から一人を高校、大学と進学させるために、他の家族が大都市に出稼ぎに出る。皆で働いて得た収入も学費の支払いで消えてしまう。子どもは、豊かになるためには学歴をつけるしかない、一生懸命に勉強する。テレビに映っていたあの子ども『一碗阳春面』を読まされるのかと思うと、なんだか申し訳ない気持ちになった。

## シャンプーを薄めるのは1回にしておこう

最近、お風呂でスクワットを50回する。シャンプーをした後、コンディショナーをつけ、スクワットをしている数分間、髪の毛に馴染ませる。以前は、コンディショナーをつけてもすぐに洗い流していたので、あまり意味がなかったが、今は、十分効果があるはずだ。運動しながらだから、時間も有効活用できる。今、シャンプーは、ビダルサスーンを使っている(ようだ)。もう10年以上、自分で買ったことがない。いつも女房が買って来たものを黙って使う。風呂の後に顔につけるのも、生協の「水の彩」とかいうやつで、色は悪いが臭いがしないので、これで済ませている。シャンプーのボトルは、資生堂ツバキの赤いやつを使っている。ツバキは、なんとなく自分の髪には合わなかったので、珍しく自分の意見を言って別のものにしてもらったが、ボトルは捨てずに、中身だけ詰め替えている。

シャンプーが残りわずかになると、ポンプを押しても、スカスカッとなるだけで、液が出てこない。ボトルを激しく振るとちょっとだけ出るが、その後は水で薄めて嵩をあげるしかない。先日、シャンプーをしたら、泡が全然立たなかった。前の日に一度薄めたものを、後で女房がさらに薄めたようだ。(出てから確認したが、してないと言い張った。)二度薄めるのは蛇道で、最後はフタをあけて直接手のひらに取って使うのが正しいやり方だ。しかたないのでビオレでシャンプーして、続いてコンディショナーをしようとしたら、こっちも薄まっていた。かなり昔の、水で溶くタイプのリンスを思い出した。